

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外 11 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立鹿島小学校	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野をもった人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
85.9%	11.5%	2.6%	0%

② ALT と英語ではなしたり、かつどうしたりするのはたのしいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
82%	15.4%	2.6%	0%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
85.9%	14.1%	0%	0%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという と知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
80.8%	11.5%	6.4%	1.3%

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
71.7%	26.1%	2.2%	0%

② ALT と英語ではなしたり、かつどうしたりするのはたのしいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
72.8%	22.8%	3.3%	1.1%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
81.5%	13%	2.2%	3.3%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
70.7%	22.8%	5.4%	1.1%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
89.2%	10.8%	0%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
91.9%	8.1%	0%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
73%	25.7%	1.3%	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・英語が楽しいと思えるようになることを期待する。 ・コミュニケーションの一つのツールとして、苦手意識のないうちにどんどん英語に慣れ親しんで欲しい。 ・英語を聞き取れる柔軟な耳を養うこと。日本以外の国や広い世界に興味関心をもつこと。 ・世界の人たちと進んで交流できる基礎づくり。 ・コミュニケーションの一つのツールとして、苦手意識のないうちにどんどん英語に慣れ親しんで欲しい。 ・英語の楽しさ、コミュニケーションの楽しさを体を知ること。 ・英語に親しむ。 ・英語に慣れる。 ・楽しみながら活動すること。 ・外国語活動の学習の定着がよりよくなること。 ・英語は、コミュニケーションの手段であることを体験的に理解すること。 音への慣れ親しみ。 ・小さいうちから外国語に慣れ親しむことで、外国語に耳が慣れて、自然に外国語でのコミュニケーションの力が身につくと思う。 			

- ・ 3年以降の外国語活動に対して期待を持てるような、面白い活動を期待する。
- ・ 外国語に興味をもたせることだと思う。
- ・ みんなで楽しむということ。
- ・ 苦手意識をもたないように取り組めること。
- ・ 英語に慣れ親しむこと。
- ・ 英語を楽しみ、英語に対して抵抗感をもたないこと
- ・ 英語を話すことに対して苦手意識がなくなっていくと思う。耳からどんどん音を取り込むのにいい時期なので、今後につながっていければと思う。
- ・ 英語を聞き取る力が育つ。
- ・ 外国語を使うことが楽しいと感じる活動であることを期待する。
- ・ コミュニケーション能力の向上。
- ・ 楽しみながら英語に触れる。
- ・ 他人とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成。
- ・ 英語に対する恐怖心克服。
- ・ 外国の文化や正しいきれいな発音に触れること。
- ・ 色々な文化に幼い頃からふれることにより寛容な態度を養う。また、コミュニケーション能力を養う。
- ・ 自己表現能力の向上。
- ・ 楽しく外国語に親しむこと。
- ・ 外国語に触れることや触れることで楽しむこと。
- ・ グローバル時代に対応できる力。
- ・ 外国語活動の授業の楽しさを学ぶ。外国に興味をもつ。
- ・ 英語の楽しさ、コミュニケーションの楽しさを体を知ること。
- ・ 外国語に触れることや触れることで楽しむこと。
- ・ 楽しみながら英語に触れる。
- ・ 専科の先生の指導、ALTとの関わりによって、大きな成果が上がっている。
- ・ 音声中心、体を動かす活動を通して英語に慣れ親しみ、英語は楽しいものとして捉えてもらう。
- ・ ネイティブな発音をそのまま発音できる小さい頃からの外国語活動に期待する。恥ずかしい気持ちより楽しいからやりたいと言う気持ちの方が強いうちに沢山の活動を経験させてあげたい。
- ・ クラスの様子は、内容がとても楽しく、生き生きと活動をしている。”
- ・ 英語が好きになること。
- ・ 英語に興味をもつこと。
- ・ 遊び感覚で外国語に触れ合うのはとてもよいと思う。
- ・ 外国語を楽しむこと。
- ・ グローバルな人材の育成。
- ・ コミュニケーション力の向上。
- ・ 緊張することなく、生き生きと活動できること。
- ・ 英語の楽しさ。
- ・ 特になし。
- ・ 外国への興味関心を高める。
- ・ 外国語を楽しみにしている児童が多いです。いつも楽しく進めていただいている。

- ・外国語（発音）に慣れ親しむこと。
- ・英語を見たり聞いたりするのに慣れる。
- ・英語嫌いにならないため、楽しく学べればよいなと思っています。
- ・外国語に慣れること。
- ・身近なものを通して、楽しく外国語活動に取り組めること。
- ・英語が楽しいと体感すること。
- ・英語に慣れて親しむこと。
- ・高学年の外国語が難しいと感じている児童もいるので、低学年から親しむといいと思う。
- ・英語での受け答えや単語の名前を覚えておくことで、学年が上がったときに応用がきくこと。
- ・人とコミュニケーションを取ることの楽しさを体得してほしい。

（４）保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
56%	38.2%	4.4%	1.4%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
73.4%	25.1%	0.5%	1%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
44.9%	42.5%	9.7%	2.9%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。

(自由記述)

- ・英語への抵抗感が芽生えないようにすすめてほしいと考えている。
- ・外国人とのふれあい。
- ・外国語に対して苦手意識を持つことなく、楽しく積極的に会話できるようになること。
- ・簡単な会話が出来るとなったり、ゲームなど楽しみながら慣れ親しんでもらいたい。
- ・英語が好きになってほしい。
- ・楽しく学べて、英語が少しでも身につけてくれたらと思う。
- ・英語への親しみ。
- ・臆せずにあいさつができて、少しの会話ができたらとっても良いと思う。
- ・表現力が豊かになって欲しい。
- ・これから先 英語に関して 苦手意識を持たないように進めてほしい。
- ・「英語＝楽しい」と子どもが思えるような活動を期待する
- ・積極的に英語を話せること。
- ・英語を楽しんでいること。
- ・英語だけではなく、楽しく外国の文化も学べるといいと思う。
- ・身近な単語や会話など、家に帰ってきてからも復習したりする時間を作ったり、授業の内容がどんな感じで行われているのか、親も知りたい。
- ・英語に慣れもっと興味を出してほしい
今までは英語を聞くと拒絶していた娘ですが、楽しく英語に触れ合え英語は楽しいという気持ちになっているようです。
2 学年も英語は楽しいという気持ちで自然に身につけていっていただきたいです。
- ・子どもが面白い、楽しいと思ってくれること
- ・表現力
- ・正しい発音を沢山聞かせて欲しい。歌ったり体を動かしたりしながら楽しく外国語に触れて興味を持ってくれたら良いと思う。
- ・早い段階で英語を学んでおけば英語に対する抵抗がなくなると思う。
- ・楽しく外国語を身近に感じる事
- ・英語の日常使いに慣れ親しむ環境
- ・タイピングや単語のスペルが少しわかってもらえるようになるといいなと思う。
- ・覚えて、話せることの楽しさを引き出すこと。
- ・楽しく英語に親しめればよい。
- ・英会話や海外の生活・お友達とのふれあいを通して世界を知る。または、世界にふれる。
- ・毎日の挨拶が発音良く言い合える環境になると良いと思う。
- ・外国に対する興味を、楽しみながら持つこと。
- ・楽しむこと。
- ・簡単な日常会話。
- ・英語を身近に感じ、慣れ親しむこと。英会話が苦手意識なくできるようになること。

- ・楽しみながら外国語に親しんでいくこと。
- ・リスニング力を付ける。
- ・遊びながらの英語活動は子供達の興味も惹きやすいと思う。
- ・楽しく英語に慣れること。
- ・単語を覚えること。
- ・ネイティブな会話。
- ・英語を教えるのはネイティブな先生が良い。
- ・興味を持てること。自分の言葉が他の言語を話す人にも伝わる体験を期待する。
- ・もっと外国語活動の時間を増やしてほしい。
- ・楽しみながら、たくさんの英単語や会話をしてもらいたい。
- ・遊びながら、簡単な挨拶や単語を覚える。
- ・楽しい時間になるといいと思う。
- ・生活の中で生かせる英語をお願いしたい。
- ・英語を楽しんで欲しい。苦手意識をもたず、もっと話したいという気持ちを育んで欲しい。また、時事的な国際的な問題にも興味をもって欲しい。世界から争いを無くすには、どうすればよいかと考える素地を養うことを期待する。
- ・挨拶が出来るようになること。

4.

実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、全教科で児童の思いや考えを引き出し、主体的・対話的な学びのある授業を推進してきた。低学年の外国語活動においては、児童にとって日本語で慣れ親しんでいる身近な内容の単語や表現を英語で学ぶことにより、多くの児童は意味を理解しながら聞いたり話したりすることができている。また聞こえた英語を手本として、同じように発音することができるので、より英語らしい発音で話すことができている児童も多い。

その結果、「外国語活動の時間を楽しい(どちらかという楽しいを含む)」と感じている児童は、1年生では97.4%、2年生では97.8%となった。また、「英語を話せるようになりたい(どちらかという話せるようになりたいを含む)」と思っている児童は、1年生では100%、2年生では94.8%となった。英語を使って自分の気持ちを表現できると実感していることが分かる。

課題としては、相づちやつなぎ言葉、ジェスチャーなどを用いて、英語でコミュニケーションを図る楽しさをより味わえるように工夫することである。低学年のうちに、ノンバーバルな部分(アイコンタクトや動作など)についてしっかりと指導しておくことで、高学年の外国語科の学習でも活用していきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

昨年度の課題は、「スピーキング力」の向上であった。「目的・場面・状況」を明確にしたスピーキングテストを毎単元の最後に計画的に実施したため、相手を意識した内容を考えたり、表現（表情、アイコンタクト、声量、ジェスチャー、反応など）したりする力が身に付いてきた。一方、6年生が受検した英検トライアルでは、昨年度に比べてリスニングが11ポイント、リーディングが18ポイント下回った。

5. 課題の改善のための取組の方向性

リスニング力の向上のために、クラスルームイングリッシュの使用を徹底し、英語の授業内で聞く英語量を増やし、英語を聞く耳を育てる。教師が投げかけてキーワードとなる語句や表現を聞き取る活動を取り入れ、わからない部分があっても、少し長めの話聞き続ける姿勢を育成していきたい。

リーディング力の向上のために、文字と音の間のルールを取り入れた読み書き指導を実施し、文字を見て単語の発音を連想し単語を読んだり、音を聞いて、単語を当て単語とマッチングさせたりする。知らない単語に出会っても、これまでの学びを生かして読むことを諦めない姿勢を育成していきたい。

